

令和元年度
参与会報告書



令和元年 8 月

独立行政法人高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

令和元年度参与会日程

期 日：令和元年5月9日（木） 14：00～16：00

会 場：岐阜工業高等専門学校 大会議室

日 程：14：00～ 開 会

(1) 校長挨拶（参与会の趣旨説明を含む。）

(2) 参与の自己紹介

14：15～ 岐阜高専の現況と課題
(伊藤校長)

14：35～ 岐阜高専の研究・社会連携活動
(和田教務主事)
・KOSEN4.0イニシアティブ事業
・グローバル高専事業

14：55～ 文部科学省AP事業と進める岐阜高専の
ICT活用教育改革
(所教育AP推進室長)

15：10～ 岐阜高専の教育活動
(羽瀧教授)
・KOSEN4.0イニシアティブ事業

15：20～ 参与による点検・評価の総括と意見交換

15：55～ 校長挨拶

16：00 閉 会

参与会出席者名簿

参 与

藤 原 勉	本巢市長 [代理出席] 本巢市 教育長 川治 秀輝
牛 込 進	株式会社TYK 代表取締役会長 (岐阜県工業会相談役)
大 貝 彰	議長 豊橋技術科学大学 副学長
桑 原 利 光	岐阜県中学校長会 会長
柏 田 健次郎	中日新聞岐阜支社 報道部長
大 野 悟	岐阜高専教育後援会 会長
土 屋 淳	岐阜高専同窓会若鮎会 会長
村 井 利 昭	岐阜大学 工学部長

岐阜工業高等専門学校 出席者

伊 藤 義 人	校長
和 田 清	副校長 (教務主事)
北 川 秀 夫	副校長 (研究主事)
山 本 浩 貴	副校長 (学生主事) [代理出席] 中谷 淳
中 島 泰 貴	副校長 (寮務主事)
加 藤 浩 三	点検評価・フォローアップ委員長 機械工学科長
亀 山 太 一	一般科目 (人文) 学科長 [代理出席] 久保田 圭司
上 原 敏 之	一般科目 (自然) 学科長
出 口 利 憲	電気情報工学科長
藤 田 一 彦	電子制御工学科長
吉 村 優 治	環境都市工学科長
鶴 田 佳 子	建築学科長 [代理出席] 青木 哲
犬 飼 利 嗣	専攻科長
所 哲 郎	教育AP推進室長
羽 渕 仁 恵	KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者
木 林 透	事務部長 学生課長 (併任)
鶉 野 晃 弘	総務課長

■令和元年 度岐阜工業高等専門学校 参与会

開 会

伊藤校長より開会の挨拶があった。

参与 自己紹介

参与より自己紹介が行われた。

岐阜高専の現況と課題

伊藤校長より本校の現状と課題について、資料に基づき説明があった。

岐阜高専の研究・社会連携活動

和田教務主事より本校の研究・社会連携活動について、資料に基づき説明があった。

文部科学省 AP 事業と進める岐阜高専の ICT 活用教育改革

所教育 AP 推進室長より本校の AP 事業と ICT 活用教育改革について、資料に基づき説明があった。

岐阜高専の教育活動（KOSEN4.0イニシアティブ事業）

羽瀧教授より本校の教育活動として、KOSEN4.0イニシアティブ事業について、資料に基づき説明があった。

参与による点検・評価の総括と意見交換

別紙のとおり、意見交換が行われた。

閉 会

伊藤校長より閉会の挨拶があった。

令和元年 7 月 30 日

参与会による外部評価報告 令和元年 5 月実施

点検評価・フォローアップ委員会

1. 点検・評価の概要

- ① 点検・評価実施年月 令和元年 5 月
- ② 点検・評価対象期間 平成 29 (2017) 年度～平成 30 (2018) 年度
- ③ 参与会構成員

ご芳名	御所属等
牛込 進 様	株式会社TYK 代表取締役会長 (岐阜県工業会 相談役)
大貝 彰 様	豊橋技術科学大学 副学長
大野 悟 様	岐阜工業高等専門学校教育後援会 会長
柏田健次郎 様	中日新聞 岐阜支社 報道部長
川本 敏 様	岐阜県商工労働部 次長 (当日御欠席)
桑原利光 様	岐阜県中学校長会 会長 (岐阜市立青山中学校 校長)
土屋 淳 様	岐阜高専同窓会 (若鮎会) 会長
藤原 勉 様	本巣市長 (当日御欠席)
川治秀輝 様	本巣市教育長 (代理出席)
村井利昭 様	岐阜大学 工学部長

④ 点検・評価実施方法

対象期間の岐阜高専の活動状況を示す資料と点検評価票を各参与に送付し、参与会に先立って、点検評価票を返送頂き岐阜高専で集計した(別紙1)。その後、平成元年 5 月 9 日に実施された参与会において、集計された点検評価票について各参与が追加のコメントを行った(別紙2)。

⑤ 点検・評価実施項目

合計 10 項目の評価項目について、各参与が 5 段階評価を実施した。

2. 点検・評価結果

- ① 項目1については、項目自体がポジティブであるため、参与の評価の平均値はいずれも3.9以上であり、高い評価を得ている。
- ② 項目2については、特に「2. 校務運営組織」の平均値が3.3と相対的に厳しい表になっている。この理由は、在籍教職員の絶対数に対して委員会の数が過多であるためである。この認識は本校の運営陣にもあり、将来計画委員会で対策が検討されてきている。令和元年度からは一般科の委員数削減措置などが実行されてきており、組織改革の取組みの成果が期待される。

A～Hは各参与

項目1 特色ある取組・優れた取組									
1	授業改革								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	5	4	3	4	5	4	4	4	4.1
2	学生指導								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	3	4	4	4	4	4	4	3.9
3	研究活動								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	5	5	4	4	5	4.4
4	国際交流								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	5	4	3	4	5	4	4	5	4.3
5	教職員の人材育成								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	4	5	4	5	5	4	4	4.3
項目2 業務の削減と効率化									
1	カリキュラム改革								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	5	4	4	5	4	4	5	4.3
2	校務運営組織								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	3	3	3	4	3	4	3	3.3
3	部活業務								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	5	4	4	4	3	4.0
4	寮業務								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	4	4	4	3	4	3.9
5	事務処理等								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	5	4	4	4	3	3	3	3.6

参与による点検・評価とりまとめ

点検・評価実施年月 2019年5月

点検・評価対象期間 平成29(2017)年度～平成30(2018)年度

評価ランク

評価5：非常に優れている。評価4：良好である。評価3：おおむね良好である。

評価2：やや不十分である。評価1：不十分である。

項目1 特色ある取組・優れた取組										
1	授業改革									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	5	4	3	4	5	4	4	4	—	4.1
	自由記載項目									
	<ul style="list-style-type: none"> 大学教育再生加速プログラムによるアクティブラーニング導入と学修成果の可視化の取組は他の高等教育機関のモデルとなる取組であり、高く評価できる。 アクティブラーニング及びグローバル化とも充実のカリキュラム。できれば歴史や古典など教養科目の一層の充実も望みたい。 これからの AI 時代を考えたときに人間の魅力・能力として、説得力、説明力、プレゼン能力、コミュニケーション能力が必要であり、そこに結びつく取組が見られる。一人一人にそれらの力をより身に付ける施策にさらに期待したい。 AL について、生徒が相互に教えあい、理解が進んでいる、授業に興味をもっているとのことで成果も出ており、優れた取り組みと思います。授業への AL と ICT の導入について生徒へのアンケート結果や授業の理解度についてデータで示せるとよいと思いました。苦手科目としていた生徒の変化にも今後注目していただきたいです。グローバル化への取り組みは、シラバスに英語導入の標記をした結果が書かれていませんが、生徒、教員に変化はあったのでしょうか。 									
2	学生指導									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	4	3	4	4	4	4	4	4	—	3.9
	自由記載項目									
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学生表彰に取り組み、学生の士気高揚を図っている。その取り組み成果がもっと外に見える形になると素晴らしい。 学生の主体性を育み、士気を高める各種取り組みを評価します。 個性を認め、伸ばす観点からよい取組といえる。全学生に対する根本的な自己肯定感を高める取組へのアプローチがほしい。 学級運営に活躍した学生を表彰されており、各自が自分の適性を活かせる場面で活躍しようという士気高揚につながっており、評価できると思います。 									
3	研究活動									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	4	4	4	5	5	4	4	5	—	4.4
	自由記載項目									
	<ul style="list-style-type: none"> 科研費の採択件数は 32 件と多いが、1 件当たりは少額の研究が多いようです。基盤 B などに今後チャレンジできる支援体制なども検討できればと思います。また地元企業との共同研究は今後充実させるべき課題と考えます。 科研費取得をベースにした研究推進は特筆すべきである。 特に問題はありません。 地域連携・中核人材育成などの取組が魅力的である。 数多くの外部資金を獲得されており、評価できると思います。 <p>今後の航空宇宙産業の成長に向け、航空宇宙生産技術人材育成事業などを通じた、国や県、岐阜大学とのさらなる連携を期待しています。</p>									
4	国際交流									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	5	4	3	4	5	4	4	5	—	4.3
	自由記載項目									
	<ul style="list-style-type: none"> 海外協定締結大学と積極的に国際セミナー等を実施している。また KOSEN4.0 イニシアティブ事業にも取り組んでいる。 東海アジアを中心として適正な規範と内容の国際交流である。 真の国際人を育成するために、国内の歴史や古典、文化を踏まえた交流の促進に期待します。 学術交流協定の海外大学の多さ等、努力が見られる。 複数の大学と協定を結んでいるのは強みと思うので、今後も相互交流に多くの生徒が参加できるようお願いします。交流や国際セミナーへの参加は、生徒の自信につながると思います。 									

5	教職員の人材育成									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	3	4	5	4	5	5	4	4	—	4.3
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・貴高専独自のSD活動を期待したい。 ・多彩な教員が数多く在籍していることが高専の強み。今後も高いレベルの人材育成を期待します。 ・学生にとっては「百の施策より一人の教師」が大切である。さまざまな研修に参加したことで人材育成に直結するわけではないので、教職員に必要な力や感性を明確にして今後も人材育成に努めてもらえるとうい。 ・教育・研究・生徒の生活指導等、多忙なため、計画的に実施していただければと思います。 									
項目2 業務の削減と効率化										
1	カリキュラム改革									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	3	5	4	4	5	4	4	5	—	4.3
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改訂に伴い、どの程度の教員及び学生の負担軽減が実現できたか、定量的な指標があると良い。 ・研究活動を軸としたカリキュラム構成を企んでいる。 ・適切な改革と評価します。 ・教育の質を下げず、学生・教員の負担を軽減するという姿勢をもち続けたい。 ・生徒にとって分かりやすいカリキュラムづくり、外部との連携をとりやすいカリキュラムをつくられており、評価できると思います。 									
2	校務運営組織									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	3	3	3	3	4	3	4	3	—	3.3
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の委員数見直し現在進行中ということで、現段階の評価は3とした。今後は見直した結果としてどの程度の負担軽減が実現できたかの検証をお願いしたい。 ・特に問題ありません。 ・委員の数の減での業務負担も方法の一つですが、メールでの会議等委員会の運営方法での負担減も考えられると思います。 									
3	部活業務									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	4	4	4	5	4	4	4	3	—	4.0
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫をされている点を評価したい。 ・十分な取り組みと思います。 ・部活動の主役は学生であるので、学生の気持ちを大切に、より外部コーチ等の充実を図りたい。 ・クラブ活動への外部コーチ活用は教員の負担減、生徒の充実した活動につながると思うので評価できると思います。生徒への対応等、外部コーチへの指導もお願いします。 									
4	寮業務									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	4	4	4	4	4	4	3	4	—	3.9
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫がされている点を評価したい。 ・適切な効率化と評価します。 ・寮父、寮母には、生徒のよき相談相手として、今後も活躍していただけるよう期待します。 									
5	事務処理等									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
	3	5	4	4	4	3	3	3	—	3.6
	自由記載項目 <ul style="list-style-type: none"> ・特に問題ありません。 ・労働時間の規制が強化される中、事務部の組織が強化されており、評価できると思います。 									

参与による口頭による御助言と御指摘等の概要

1. 牛込進参与：(株)TYK 代表取締役会長（岐阜県工業会相談役）

- ① 全寮制として、学生の社会性を涵養頂きたい。成績は良いが社会性に欠けるタイプの学生が増えてきている。弊社では新入社員に対しては全寮制としている。

回答（伊藤校長） ご主旨は理解できるが、弊校の学生寮の収容人員は300名程度であり、1000名の全学生を収容することは難しい状況ではある。寮の位置づけは創立当初からこの枠組みになっているので全寮制の実現は難しい。

- ② インターンシップをより活発にして頂きたい。また、東海地方はモノづくりの宝庫であるので、この環境を生かして、インターンシップの他にも、工場見学など、実際の生産現場を見る機会を増やして頂きたい。工場見学では当該企業の講話を聴く機会とすると、いっそう有機的な機会になる。
- ③ 単科大学の卒業生は概して社会人としての視野が狭い。弊社の人材でも単科大学の学生は課長級まではよく活躍するが、これより上位の管理職になると視野の狭さ故か、期待通りの活躍がなされない場合がある。

2. 川治秀輝様（本巣市長代理）本巣市教育長

- ① AP事業は大変興味深く、魅惑的な事業である。『ないものは自分で作る』姿勢は素晴らしい。ポイントの多い学生が、いっそう活躍するのはポイント獲得の枠組みを超えて、取組み自体に魅力を感じているためであろう。また、教員の質の向上の観点から、教員が相互に授業参観する取組みも素晴らしい。

- ② キャリア教育について、岐阜高専全体で統一的な指針に基づいて実施されるよう改革されたことは評価できる。一方で各学科の独自性が失われるのではないかと懸念もある。コンピテンシーについて『低学年では低下し、高学年では向上する』背景を解析頂き、低学年のコンピテンシー向上の取組みに役立てて頂きたい。

参与会終了後の回答（羽瀧 KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者） キャリア教育のプログラムは全学科共通のタイプと各学科独自のタイプの2本立ての構成になっている。そのため学科の独自性が失われる懸念はないものとする。この点はプログラム構成の策定時から特に配慮した点ではある。

- ③ OB会である若鮎会の活躍は素晴らしい。地域の活性化にもいっそうの活躍を期待したい。

3. 柏田健次郎参与：中日新聞岐阜支社 報道部長

- ① キャリア教育についての取組みが特に評価できる。
- ② 専門の教育課程は充実しており、教員団の資質も多様であり、技術者教育の面では体制・実績とも評価できる。けれども一般教養課程の充実についてはやや懸念もある。
- ③ 女子学生の割合は増えているが、まだ拡大する余地はあるように感じる。女子学生獲得に向けた広報活動等についてどのような取組をされているのか興味のあるところではある。

4. 村井利昭参与：岐阜大学工学部長

- ① 5年間の一貫した技術者教育は、制度自体が技術者教育に有利である。3年生でコンピテンシーが低下するとの結果が示されたが、この傾向は当然のことであると考えられる。この低下傾向を懸念するよりは、4・5年生のいっそうの能力向上に注力する考え方も重要である。
- ② AP事業について、学生の授業評価を内向きから外向きに変革される方向性は評価できる。優れた授業についてはYOUTUBEにアップロードされてはどうか。

5. 桑原利光参与：岐阜県中学校校長会会長（岐阜市立青山中学校校長）

- ① 素晴らしい卒業生がいることに驚き、また感動した。岐阜高専の素晴らしい状況が中学生には届きにくい。各中学校では6月頃から高校説明会を行うので、岐阜高専もぜひ参加して頂きたい。

回答（加藤点検評価・フォローアップ委員長） 中学校さんで開催される進路説明会には従来から積極的に参加させて頂いている。例年、岐阜高専からも進路説明会への参加の機会を頂けるように積極的にお願いしている状況である。

5. 土屋淳参与：岐阜高専同窓会（若鮎会）会長

- ① 国際交流について、私の在学中は専ら留学生が来るのみであったが、現在では相互に短期の留学生交換をも実施しており、グローバル化進んでいる点を評価したい。
- ② AP事業における授業の可視化については、学生の評価であるので、学生の評価が必ずしも真に良い授業とは限らないので、この扱いにはフィルタリングが必要である。

回答（所教育 AP 推進室長） 当室で実施している学生の授業アンケートは良い点のみを記載するシステ

ムになっている。学生の評価であるため、評価に偏りのある懸念も確かにあるが、これを学内公開していることにより、良い授業とされた授業については、遠慮なく授業参観できる状況・環境が形成されている。総じて本システムは教員による相互授業参観の促進、ひいては授業の質の向上に役立っている。なお、教育施設整備のアンケートについてはフィードバックを迅速に行っているため、学生のアンケートに対する信頼度を向上させる役割をも担っている。

- ③ キャリア教育のパワーポイントによる説明について、『コミュニケーション講座』が印象に残っているが、コミュニケーション能力の向上は技術者にとって重要であり、今後も積極的に進めて頂きたい。

回答（羽瀧 KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者） コミュニケーション能力は実習やクラス内での活動を通して自然に身につくものとして指導はしていなかった。しかし、近年コミュニケーションを苦手とする学生が多々見られる。本事業を契機としてコミュニケーションが苦手な学生に対して手助けになるよう、コミュニケーション講座を取り入れた。今後も積極的に推進して行く考えである。

6. 大野悟参与：岐阜高専教育後援会会長

- ① 多様なプロジェクトが進められており、予算獲得の手段としても充実しているので今後も積極的に進めて頂きたい。
- ② 海外の大学との包括的な提携を進められており、グローバル化を促進されていることは評価できる。一方で、これらの提携大学はどのように選択されているか、また今後はさらに拡大していかれるのか。
- 回答（伊藤校長）** 海外大学との提携は、実質的に学生や教員の相互交換・留学等の成果のあるものに厳選して実施している。今後、拡大する際にもこの観点で推進して行く考えである。

7. 大貝彰参与：豊橋技術科学大学副学長

- ① 国際化・グローバル化の推進が顕著であり、特に評価したい。
- ② 文部科学省からは予算が削られる状況下であり、また人員削減が迫られて、人件費割合の低減が求められる状況下であるが、外部資金等の獲得やプロジェクトの推進を積極的に進められている点も素晴らしい。
- ③ 貴校の卒業生の後藤太一教員も豊橋技術科学大学の若手教員として将来が嘱望される人材として評価も高い。

岐阜工業高等専門学校参与会規程

制定 平成16年8月25日
学校規則第38号

(設置)

第1条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くため、参与会を置く。

(任務)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言又は勧告を行うものとする。

- 一 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- 二 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- 三 その他本校の運営に関する事項

(組織)

第3条 参与会は、次の各号に掲げる参与若干名で組織する。

- 一 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員等
- 二 産業・経済界の関係者
- 三 本校の所在する地域の関係者
- 四 本校を卒業又は修了した者
- 五 その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

(委嘱)

第4条 参与は、校長が委嘱する。

(任期)

第5条 参与の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第6条 参与会に会長及び副会長を置き、それぞれ委員の互選とする。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(運営)

第7条 参与会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

(庶務)

第8条 参与会の庶務は、総務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成16年8月25日から施行する。

2 岐阜工業高等専門学校有識者との懇話会要綱（平成13年12月5日校長裁定）は、廃止する。

附 則（平成19年学校規則第29号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成25年学校規則第8号）

この規程は、平成25年4月1日から施行する。